

新しい生活、新しい教室、新しい仲間。それは、すべてが新鮮で希望の卵たちが。そして、私たちは「if=いっしょ」を。そして、これから仲間といっしょ。そして、大きく新しい夢や未来を創っていく。そして、大切な時を一緒に歩んでいく。

そして、新しい夢、希望の卵たちがこの「if」には結まっています。

if 53

ichikawa family

いちかわファミリー

市川高校学校通信

ICHIKAWA Senior High School
School Life Profile Paper, 5月号
ICHIKAWA Family vol.53 May 2016

早期に!
きめ細かく!!
個別に対応!!!

これが……
生徒の夢の
実現を支える
市川高校の進学指導

きめ細かな進路指導・キラリと光る進路実績

平成27年度 大学・短大合格者数(現役生)

	国立大	公立大	私立大	国立短大	私立短大
受験者数	40	48	232	0	9
合格者数	7	15	130	0	9
合格率	17.5%	31.3%	56.0%		100.0%

平成27年度 進路決定状況(実数)

	在籍	大学	短大	専修	就職	その他	未定
男子	75	52	0	11	6	5	1
女子	76	48	8	15	2	3	0
合計	151	100	8	26	8	8	1
対在籍割合		66.2%	5.2%	17.2%	5.2%	5.2%	0.6%

過去3年間の主な合格大学

国立大学	公立大学
山梨大学	山梨県立大学
お茶の水女子大学	都留文科大学
東京芸術大学	静岡県立大学
千葉大学	新潟県立大学
東京学芸大学	群馬県立女子大学
信州大学	秋田公立美術大学
静岡大学	広島市立大学
茨城大学	富山県立大学
群馬大学	名桜大学

思いっきり

オンもオフも

ON
OFF

Contents

- [連載] 校長室だより
開かれた学校
- [特集] 在校生メッセージ
いちかわファミリーの日常!
- 進路指導主事から
- 卒業生から

私が弓道経験者だと言うと、たいていの人は「弓道って、こういうのじゃない?」と手を広げて矢を放つ仕事を。元々は狩猟の道具なのだから、基本は「構え・狙い・撃つ」なのだが、その過程で一番大事なのが「構え」であることは弓道をやっている人でないと実感できないかもしれない。弓を射る発射台である自分の「ボディ」を毎回無意識に、毎回同じように、かつ正確に動かさなければならぬ。心の乱れは体を乱す。汗をにじませ、足を震わせ、視線をさまよわせ、そして手の内を緩ませる。平常心を保つことが何より大事であることは言うまでもない。弓道に限らず、すべてのスポーツや勉強、勝負事には万全な構えを造り、平常心で臨みたい。

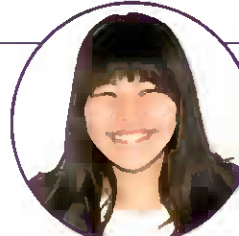
市川高校では、生徒それぞれの夢や目標をかなえるための万全の構えを造り上げるべく、入学直後から計画的な進路指導を行っている。それは入学時の学力から、生徒自身が持っている「伸びしろ」を最大まで引き出すためである。高校の三年間はあっといふ間なので、「自分を知り、他者や社会と良好な関係を構築する力」「将来の職業や進路を考えて主体的に取り組む力」「自己の課題を見つけ、意欲的に克服していく力」「社会での自己の役割を理解して必要な行動を遂行していく力」を身につけさせるため生徒一人ひとりを丁寧にサポートしている。進路希望調査を年二回実施し、頻りに二番懇談をするのは、その時点での進路への思いを知るためであり、同時に生徒自身に気づかせるためでもある。学力の養成についても、一年次の五月から土曜学習会、課外講座、小論文講座、サテライン講座と夏季登校学習会や校内夏季課外で三年間を通してバックアップする。三年生の七月からはマンツーマンでの小論文・面接対策を学校全体で推進していく。生徒が夢や目標を見つけ、そこに向かって努力してくれることが何よりの喜びだ。だから、一度決めたら自分の意思を貫いてほしい。そのために生徒に寄り添い、力にすることが本校の進路指導である。



進路指導主事
丸山 裕子
Yuko Maruyama

卒業生から Episode

わたしの受験エピソード



山梨大学教育学部 障害児教育コース
英語科 望月 七星(中富中出身)
Nanase Mochizuki



群馬県立女子大学文学部 美学美術史学科
普通科 加賀美 麻由(増穂中出身)
Mayu Kagami

大学受験を経験して……

私は一年の秋頃に自分のやりたいことに出会い、それからは「今の自分に出会う」として「こう」と意識してきました。ですから山ヨビ講座で小論文の書き方を学んだりボランティア活動に参加したりしました。そして本格的に小論文や面接の指導が始まってからは、多くの先生方や友人の支えのおかげで、苦手だった小論文が書けるようになったり、自身の経験を生かした内容を面接で伝えられるようになったりしたので、自信を持って受験に臨むことができました。

私はこの受験を通じて、小さな積み重ねの大切さと先生方や友人の存在の大きさを改めて感じました。これからも支えてくれた多くの人に感謝し、今の自分にできることを考えて大学生活を送りたいです。

受験を通して

私は一般入試の後期試験でこの大学に決まりました。後期試験はセンター試験の結果と小論文のみでしたが、小論文はほとんど対策をしておかなかったため、とても焦りました。しかし、卒業した後まで担任の先生にしっかりと指導してもらい、無事合格することができました。前期試験が終わった後や、卒業した後、他の人が遊んでいる中、自分はと落ち込むこともありましたが、しかし、それを乗り越えて、今の自分があるのは、最後まで図書館で一緒に勉強した友達、応援してくれた家族、そして何より熱心に面倒を見てくれた市川高校の先生方のおかげです。受験を通じて、改めて先生方の頼もしさに気がきました。本当にありがとうございました。

発行 山梨県立市川高等学校
〒409-3601 山梨県西八代郡市川三郷町市川大門1733-2
tel.055-272-1161 fax.055-272-1164
URL: http://www.ichikawa.kai.ed.jp/ Mail: info@ichikawa.kai.ed.jp
発行日 平成28年5月10日
編集 市川高等学校 広報委員会



校長 丹沢 公彦
Kimihiro Tanzawa

開かれた学校

教育は、個性を尊重しつつ個々の諸能力を伸ばし、自立した人間として幸福な生涯を送るための人格の完成を目指すものと考えます。また、同時に、社会の一員としての自覚と責任を持ち、主体的に社会参画する態度を育むこと。さらに、郷土の豊かな自然や風土が育んだ歴史や文化を守り、次代に伝え、より豊かなものへと発展させていくことも、教育が持つ重要な使命です。とりわけ生徒に関わる教育は、学校や家庭での教育だけでなく、社会の様々な世代の様々な主体が、多様な形で教育に関わることで、働くことや自立すること、社会への参画、文化の伝承など、多様な姿を生徒たちに示すことができ、「生きる力」は高められていくのではないのでしょうか。

しかし、近年、地域社会や家族の変容による社会のつながりの希薄化は、個人個人の孤立化や規範意識の低下をもたらしています。また、変化の激しい社会においては、生涯を通じて自らを磨き、高めていくことが一層重要になっていきます。今こそ、家庭・学校・地域社会が一体となって次の時代の宝子子供たちの教育に当たる必要があります。

家庭・学校・地域は、人と人との出会いを通して、より良い生き方を学ぶ大切な教育の場であるとともに、学んだことを実践する場でもあります。すなわち、家庭は親子等を中心とした人間関係づくりの場、学校は同年齢の生徒を中心とした人間関係づくりの場です。そして地域は、さまざまな立場の多くの人々が共に支え合い、つながり合う場です。その特性と役割を大切にしながら、三者が一体となった組織的な活動を展開することは、人権を大切にする文化を創造するうえで重要な要素であるといえます。そのためには、まず、家庭・学校・地域をつなぐ組織づくりを進めていきたいものです。地域のなかで活動しているさまざまな人や団体、学校や家庭が、行事や研修会等の活動を企画・立案し、共に実施し、それを次の取組につなげていくといった地域コミュニティづくりを努めたいものです。



一員として

市川ファミリーの一員として

1年1組 上田 綾人(身延中出身)

市川高校での生活初日、周りは知らない人ばかりで、とても緊張していました。知らない人とうまくやっていけるのか、そんな不安がものすごくあり、自分のことではいっばいだったなで、唯一思えることがありました。それは、先生と生徒の距離の近さです。以前から聞いてはいましたが、実際に先生と生徒が話しているのを見て、改めて感じました。これが「市川ファミリー」なのだ。私は、まだまだわからないことばかりで、周りの人と仲良くできるか、勉強についていけるかなど様々な不安があります。しかし、私はもう、「市川ファミリー」の一員です。そのことに自覚と誇りを持ち、これからの3年間を邁進していきたいと思っています。

夢に向かって

1年2組 相馬 勝一郎(押原中出身)

3月の新入生オリエンテーションの日、僕は市川高校の校章を手に入れました。その時はまだ高校生になつたという実感がありませんでした。そんな中で迎えた入学式、新しい制服を着て登校することはとても新鮮で、同じ中学校を卒業して同じ制服を着た友達を見ると、自分も高校生になったという実感がわきました。校長先生のお話を聞き、将来自分がどうなりたいか、どういう人間になるのか考えているうちに、興奮で身体が震えてきました。これからの高校生活では、自分のやりたいことや職業を探し、その夢の実現に向かって走れるように一日一日を大切に生活したいと思っています。

それが、市川ファミリー

頑張りたいたい

1年3組 小澤 咲太(田富中出身)

ついに始まった私の高校生活。中学校の時からずっと行きたいと願っていた市川高校に入学し、私も晴れていちかわファミリーの一員になりました。しかし、嬉しい反面、不安な気持ちにも駆られています。初対面の人、初めて足を踏み入れた校舎、慣れない環境ですが、私にはこの高校生活で頑張りたいたいことが二つあります。一つは部活動です。県内トップの実績を誇る男子バスケットボール部で、私も個人の技術を高めると共に、チームとしても目標を達成できるように努力していきたいです。そして二つ目は勉強です。大学進学を希望しているので、クラスメイトや友人と互いに切磋琢磨しながら、学力の質も上げていきたいです。そして、充実した高校生活を送ることができるように毎日を過ごしていきたいと思っています。

市川ファミリーになって

1年4組 大森 彩也香(柳形中出身)

先生方と生徒一人ひとりの距離がとても近いこと。これが市川高校最大の魅力なのだ。入学して改めて思っています。以前から持っていた明るくて楽しいというイメージが、さらに強くなりました。これは規模が小さい市川高校だからこそ良かったと思います。この高校の先輩方は、皆自分の過ごす時間を一杯楽しんでいるように見えます。そんな先輩方を見てると、この高校で過ごす時間がどれほど楽しくて充実しているかが伝わってきます。私もこれからの3年間を有意義な時間に使いたいと思っています。市川ファミリーの一員として、先輩方のように沢山の思い出を作りたいです。

自覚と誇り



支えと励まし

いちかわファミリー

2年4組 折居 海音(増穂中出身)

いちかわファミリーの一員となって早1年。まだまだほとんど実感していませんが、私は2年生になりました。高校生活は、以上に忙しく、文武両道の厳しさを痛感しました。また、周りの人から様々な刺激を受け、自分で自身を向上させることができました。周りからの支えや励ましがあつたから、乗り越えられた1年間だったと思います。私も誰かに少しでも良い影響を与えられる人になりたいと思います。今年度はそのように、意識しながら学校生活を過ごしていきたいです。後悔もできたので、いちかわファミリーの温かさを伝えていけるよう、頑張りたいと思っています。

の日常

3年生としての決意

3年1組 石原 野絵留(三珠中出身)

つくづく時間はあっという間だと感じる。以前までいた先輩達もいつのまにかいなくなつた。そんな私たちに芽生えのは決意だ。3年前、中学生だった時の感覚とよく似ているがその先にあるのは違う景色だ。人生を左右する1年が否応なしに始まつてしまったのだ。今までできたことやできない。私たちは全ての行為に対して、全力を尽くさなければいけない。勿論、失敗はある。だが、謙虚に取り組むことで結果がついてくると思う。私個人の夢は非常に壮大な夢だ。だが、どんな道回りでも夢にチャレンジしていく精神を忘れずにいたい。夢を成し遂げることもその過程を大切に、人生の大きな財産としたい。

人生の財産

